

問1 中国から軍事的な指揮権を認められ、国内での権力強化を図った王たちの総称を何という？

1. 推古天皇 2. 天智天皇 3. 倭の五王 4. 聖徳太子

問2 儒教の伝来とともに日本に広まった、孔子の教えを記した書物を何という？

1. 論語 2. 千字文 3. 日本書紀 4. 古事記

問3 世界遺産にも登録されている、日本最大規模の大仙古墳が位置する都市はどこ？

1. 奈良県天理市 2. 大阪府堺市 3. 岡山県岡山市 4. 群馬県太田市

問4 中国の歴史書『宋書』に記されている、ワカタケル大王（雄略天皇）と同一人物と考えられる王を何という？

1. 倭王讃 2. 倭王興 3. 倭王珍 4. 倭王武

問5 3世紀後半からヤマト王権において、各地の豪族を従えていた最高権力者を何という？

1. 大王 2. 太政大臣 3. 天皇 4. 将軍

問6 5世紀のヤマト王権が、外交のために使者を派遣していた中国の王朝はどこ？

1. 齊 2. 南朝 3. 東晋 4. 宋

問7 古墳の周囲に立て並べられた、当時の権威を示す土製の焼き物を何という？

1. 壁画 2. 勾玉 3. 埴輪 4. 須恵器

問8 古墳時代に輸入された鉄を利用して作られ、農業生産力を向上させた道具を何という？

1. 木製農具 2. 石製農具 3. 青銅製農具 4. 鉄製農具

問9 ヤマト王権が、軍事的な指揮権を認めてもらうために使者を送り、鉄資源などの確保を目指した地域はどこ？

1. 琉球諸島 2. 中国大陸 3. 朝鮮半島 4. 日本列島

問10 3世紀後半から奈良盆地を中心に広がり、各地の豪族を従えて日本列島の広範囲に勢力を及ぼした政治連合は何という？

1. ヤマト王権 2. 奈良政権 3. 飛鳥政権 4. 平安政権

問11 古墳の内部に死者の権威を示すために納められた鏡などの品々を何という？

1. 封土 2. 副葬品 3. 木棺 4. 壁画

問12 5世紀ごろ、百済の博士として日本に派遣され、漢字とともに儒教を伝えた人物は誰？

1. 弓月君 2. 阿知使主 3. 恵美押勝 4. 王仁

問13 仏教を深く信仰し、政治や文化に取り入れることで、新しい文明の定着に努めた人物は誰？

1. 中大兄皇子 2. 物部守屋 3. 聖徳太子 4. 蘇我馬子

問14 5世紀ごろ、日本に漢字や経典を伝えたと言われる、百済から来た人物は誰？

1. 王仁 2. 阿知使主 3. 恵美押勝 4. 弓月君

問15 5世紀後半にヤマト政権の最高権力者が用いた称号を何という？

1. 天皇 2. 大王 3. 閑白 4. 将軍

問16 6世紀、百済から日本へ正式に伝えられ、日本の政治や文化に大きな影響を与えた宗教を何という？

1. 道教 2. 儒教 3. 神道 4. 仏教

答え合わせ・解説

問1	答え 3 倭の五王	宋書という中国の歴史書に登場する「讃・珍・済・興・武」の5人の王を指します。彼らは南朝の皇帝から「倭王」として認められ、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを追認されました。この外交的承認を利用することで、彼らは国内の豪族に対して優位に立ち、自らの権威をより確固たるものにしました。
問2	答え 1 論語	『論語』は、家族の絆や社会での礼儀、指導者としての誠実さを説いた書物です。日本に伝わると、漢字の学習教材として活用されるだけでなく、統治者やエリートの道徳的教養として大切にされました。この書物を通じて、日本人は「人としてのあり方」や「社会秩序」という考え方を学びました。
問3	答え 2 大阪府堺市	大阪府堺市にある大仙古墳は、日本最大級の前方後円墳として知られており、周囲の古墳と共に「百舌鳥・古市古墳群」を構成しています。この地域は当時のヤマト王権の中心地に近い場所であり、強大な権力を持った支配者が存在したことを物語っています。
問4	答え 4 倭王武	中国の歴史書である『宋書』には、倭国の王の名前が記されており、その中の「武」は、国内の遺跡から発見された鉄剣の銘文にある「ワカタケル大王（雄略天皇）」のことだと考えられています。これにより、日本の歴史がアジアの国際情勢の中で位置づけられるようになりました。
問5	答え 1 大王	ヤマト王権の長は「大王（おおきみ）」と呼ばれ、各地の豪族を服属させたり、有力豪族を中央の官職につけたりして国を治めました。後に天皇と称するようになる前の、強大な権力を持つ王の呼称です。
問6	答え 2 南朝	ヤマト王権の指導者たちは、半島での影響力を強める正当性を得るため、南朝の皇帝へ使者を派遣しました。朝貢と呼ばれる形式をとることで、中国皇帝から將軍の号を授かり、国内の支配を強化しようとした。
問7	答え 3 埴輪	埴輪は粘土で作った土製品で、円筒形や家形、人物、馬などの形をしています。死者を弔うための祭祀の道具として、また埋葬者の権力を周囲に見せつける演出として機能しました。これらを並べることで、墓という空間がより一層格式高いものになったと考えられています。
問8	答え 4 鉄製農具	鉄製の鋤（すき）や鍬（くわ）などの鉄製農具が普及したことで、それまで開墾できなかった硬い土地の耕作が可能になりました。これにより稲作の効率が飛躍的に高まり、収穫量が増加しました。さらに鉄は武器の材料としても使われ、ヤマト王権の軍勢力強化にも大きく貢献しました。
問9	答え 3 朝鮮半島	ヤマト王権は、半島南部の諸国との交流を強めることで、安定した鉄の供給を図りました。また、半島内での権益を確保するために中国の王朝へ使いを送り、自身の軍事的な立場を認めさせようとした。
問10	答え 1 ヤマト王権	ヤマト王権は、現在の奈良県周辺を拠点とし、強大な力を持った豪族の連合体です。大王を頂点として組織され、各地の豪族を服属させることで支配地域を拡大していきました。朝鮮半島との外交や、大陸の進んだ技術の導入に積極的に取り組んだのが特徴です。
問11	答え 2 副葬品	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な副葬品です。これらは当時、非常に貴重な宝物や技術の象徴でした。また、墳丘の上には土製の埴輪が並べられ、埋葬された人物の威厳を周囲に示しました。
問12	答え 4 王仁	王仁は百済から派遣された博士であり、優れた学識で日本の朝廷に貢献しました。彼が『論語』や『千字文』をもたらしたという伝説は、日本の学問が大陸から本格的に導入されたことの象徴とされています。王仁の存在は、日本人が漢字を習得し、中国の進んだ統治の知恵である儒教を学ぶきっかけとなったとされています。
問13	答え 3 聖徳太子	聖徳太子は仏教の教えを「和」の精神として政治の基礎に据えました。「十七条憲法」を制定して役人の心構えを示し、「冠位十二階」で才能に基づいた官職登用を目指しました。また、法隆寺の建立などを通じて仏教文化を保護し、国全体に新しい文明が定着するように努めました。
問14	答え 1 王仁	王仁は伝説的な人物として『古事記』や『日本書紀』に記されており、百済の王から日本へ派遣されたとされています。彼は漢字を用いて記録する技術や、中国の古典を日本に伝えました。彼によってもたらされた知識は、当時の日本の知識層にとっての教科書となり、日本の文字文化の発展に決定的な影響を与えました。
問15	答え 2 大王	この時期の最高権力者は「大王（おおきみ）」という称号と呼ばれ、各地の豪族を従えて国を治めました。埼玉県や熊本県の古墳から出土した鉄剣の銘文にも「ワカタケル大王」という記述が見られ、当時の王権が地方へ影響力を持っていたことがわかります。
問16	答え 4 仏教	仏教の伝来は単なる宗教の広まりにとどまらず、新しい文明の到来を意味しました。特に、仏教が持つ高度な建築技術、芸術、そして教えは、当時の朝廷にとって大きな魅力でした。そのため、仏教を受け入れるかどうかを巡り、蘇我氏と物部氏の間で激しい争いが起こるなど、政治的な影響も及ぼしました。